

第9回県中学生百人一首かるた大会 参加者募集!

この4月に中学1～3年生になる方を対象に、使用札を40枚に限定した百人一首かるた大会を開催します。百人一首かるたの経験がない方でも、大会当日に予行演習を行いますので、この機会にぜひご参加ください。



日 時：2026(令和8)年5月5日(火祝) 12:30～(遅くても16:30まで)
12:30～12:40(開会式) 12:40～15:00(予行演習・予選リーグ) 15:10～(決勝トーナメント)

場 所：ユープラザうたづ 2階和室 (香川県綾歌郡宇多津町浜六番丁88)

参加資格：2026(令和8)年4月時点で **中学1～3年生** (県外の方も可)

主催：香川玉藻かるた会 後援：香川県教育委員会、各市町教育委員会 (高松市、丸亀市、坂出市、善通寺市、観音寺市、さぬき市、東かがわ市、三豊市、土庄町、小豆島町、直島町、三木町、宇多津町、綾川町、琴平町、多度津町、まんのう町、四国中央市)、KBN

・参加・申込先：参加費は **無 料** です。

申込フォーム

・参加希望の方は、**申込フォームにて登録**または**参加申込書の必要事項を記載したメールを送信**もしくは**郵送にて申込書**を下記あてに**送付**してください。原則、申込受付時の連絡は行いませんが、内容に不備等がある場合は連絡を行うことがあります。**参加受付した場合は、申込締め切り後にご自宅に案内文書を郵送するほか、大会終了後にご自宅に結果一覧を郵送します**ので、申込の際には住所等を正確にご記入ください。



〒760-0055 香川県高松市観光通2-10-22 香川玉藻かるた会事務局あて

E-mail kagawa-tamamo_karuta@abelia.ocn.ne.jp



- ・試合方法・賞状・賞品：一般社団法人全日本かるた協会が定める公式ルールに準拠した本大会特別ルールにより、1対1の個人戦で行います (使用札は裏面をご参照ください)。
- ・予選リーグの前に、参加者全員による勝ち負けの付かない予行演習 (2試合) を行います。
- ・賞状・賞品：優 勝——賞状+図書カード5,000円分
準優勝——賞状+図書カード3,000円分
3 位——賞状+図書カード2,000円分

(切り取り線)

第9回県中学生百人一首かるた大会 参加申込書

(ふりがな)	男 学 校	(2026年4月時点)	
氏 名	女 学 年	中学校 年	
郵便番号	〒	連 絡 先	
住 所	市・郡 町	電話番号	

- ・申込締め切りは2026(令和8)年4月10日(金)です。期限厳守でよろしくお願いします。
- ・記載いただいた個人情報については、本大会以外の目的で利用することはありません。

No.	五色かるた	上の句	下の句（札に書いてある方）	詠み人
1	青色	あしびきの ^{やまどり} 山鳥の尾の ^お しだり尾の ^お	なかなかしよを ^お ひとりかもねむ	柿本人麻呂 ^{かきのものとのひとまろ}
2	青色	あまつ ^{かぜ} 風 雲の ^{くも} 通ひ路 ^{かよひ} 吹き閉ぢよ ^ふ	をとめのすかた ^お しはしととめむ	僧正遍照 ^{そうじょうへんじょう}
3	青色	みち ^{みち} 奥 ^{おく} の ^の しのぶもぢずり ^し 誰ゆゑに ^{たれ}	みたれそめにし ^お われならなくに	源 融 ^{みなもとのとる}
4	青色	このたびは ^{ぬさ} 幣も取りあへず ^と 手向山 ^{たむけやま}	もみちのにしき ^お かみのまにまに	菅原道真 ^{すがわらのみちまね}
5	青色	あさぼらけ ^{あけ} あり明の月と ^{つき} 見るまでに ^み	よしののさとに ^お ふれるしらゆき	坂上是則 ^{さかのうえのこれのり}
6	青色	めぐり逢ひて ^あ 見しやそれとも ^み 分かぬ間に ^{わか}	くもかくれにし ^お よはのつきかな	紫式部 ^{むらさきしきぶ}
7	青色	よをこめて ^{しき} 鳥の ^あ そら音は ^お はかるとも	よにあふさかの ^お せきはゆるさし	清少納言 ^{せいしよなごん}
8	青色	もも敷 ^ふ や ^あ 古き軒端の ^{ふるきのきば} しのぶにも	なほあまりある ^お むかしなりけり	順徳天皇 ^{じゅんとくてんのう}
9	ピンク	あきの ^あ 田の ^の かりほの庵の ^{かりほのいほ} 苦をあらみ ^{くるを}	わかころもては ^お つゆにぬれつつ	天智天皇 ^{てんじてんのう}
10	ピンク	しのぶれど ^し 色に出でにけり ^{いろ} わが恋は ^{こひ}	ものやおもふと ^お ひとのとふまて	平兼盛 ^{たいらのかねもり}
11	ピンク	かぜを ^い いたみ ^わ 岩うつ波の ^{いわうたな} おのれのみ ^{おのれのみ}	くたけてものを ^お おもふころかな	源 重之 ^{みなもとのしげゆき}
12	ピンク	かくとだに ^お えやは伊吹の ^{いふき} さしも草 ^{さしもくさ}	さしもしらしな ^お もゆるおもひを	藤原実方 ^{ふじわらのさねかた}
13	ピンク	もろともに ^も あはれと思へ ^{あはれを} 山桜 ^{やまざくら}	はなよりほかに ^お しるひともなし	行尊大僧正 ^{ぎょうそんだいそうじょう}
14	ピンク	よのなかよ ^よ 道こそなけれ ^{みち} 思ひ入る ^{おもひい}	やまのおくにも ^お しかそなくなる	藤原俊成 ^{ふじわらのしゅんせい}
15	ピンク	なげけとて ^な 月やはものを ^{つき} 思はする ^{おも}	かこちかほなる ^お わかなみたかな	西行法師 ^{さいぎょうほうし}
16	ピンク	こぬ人 ^{ひと} を ^を 松帆の浦の ^{まつほのうら} 夕なぎに ^{ゆふ}	やくやもしほの ^お みもこかれつつ	藤原定家 ^{ふじわらのていか}
17	黄色	はるすぎて ^{はる} 夏来にけらし ^{なつ} 白妙の ^{しろたえ}	ころもほすてふ ^お あまのかくやま	持統天皇 ^{じとうてんのう}
18	黄色	あまの ^{あま} 原 ^{はら} ふりさけ見れば ^み 春日なる ^{かすが}	みかさのやまに ^お いてしつきかも	阿倍仲麻呂 ^{あべのなかつまろ}
19	黄色	ひさかたの ^ひ 光の ^{ひかり} どけき ^{どけき} 春の日に ^{はるのひ}	しつこころなく ^お はなのちるらむ	紀友則 ^{きのともり}
20	黄色	しら露に ^{つゆ} 風の吹きしく ^{かぜ} 秋の野は ^{あき}	つらぬきとめぬ ^お たまそちりける	文屋朝康 ^{ふんやのあさやす}
21	黄色	おほえ山 ^{おほやま} いく野の道の ^{いくの} 遠ければ ^{とほ}	またふみもみす ^お あまのはしたて	小式部内侍 ^{こしきぶのななし}
22	黄色	あきかぜに ^{あき} たなびく雲の ^{かぜ} 絶え間より ^{たま}	もれいつるつきの ^お かけのさやけさ	藤原顕輔 ^{ふじわらのあきすけ}
23	黄色	みよし野の ^の 山の秋風 ^{やまのあきかぜ} さ夜更けて ^よ	ふるさとさむく ^お ころもうつなり	飛鳥井雅経 ^{あすかいのみまさつね}
24	黄色	はなさそふ ^は 風の庭の ^{かぜのにわ} 雪ならで ^{ゆき}	ふりゆくものは ^お わかみなりけり	西園寺公経 ^{さいおんじきんつね}
25	緑色	わがいはは ^{わが} 都の ^{みやこ} たつみ ^{たつみ} しかぞすむ	よをうちやまと ^お ひとはいふなり	喜撰法師 ^{きせんほうし}
26	緑色	はなの色は ^{はな} 移りにけりな ^{うつ} いたづらに	わかみよにふる ^お なかめせしまに	小野小町 ^{おののこまち}
27	緑色	ちはやぶる ^{かみ} 神代も聞かず ^{かみよき} 竜田川 ^{たつたがわ}	からくれなゐに ^お みつくくとは	在原業平 ^{ありわらのなりひら}
28	緑色	こころあてに ^{こころ} 折らばや折らむ ^し 初霜の ^{はつしも}	おきまとはせる ^お しらきくのはな	凡河内躬恒 ^{おおしこうちのみつね}
29	緑色	ひとはいさ ^{ひと} 心も知らず ^{こころ} ふるさとは	はなそむかしの ^お かににほひける	紀貫之 ^{きのつらゆき}
30	緑色	こころにも ^{こころ} あらで憂き世に ^{うれ} 永らへば ^{なが}	こひしかるへき ^お よはのつきかな	三条天皇 ^{さんじょうてんのう}
31	緑色	わがそでは ^{わが} 潮干に見えぬ ^{しほ} 沖の石の ^{おき}	ひとこそしらね ^お かわくまもなし	二条院讃岐 ^{にじょういんさんぎ}
32	緑色	よのなかは ^よ 常にもがもな ^{つね} 渚漕ぐ ^{なぎさ}	あまのをふねの ^お つなてかなしも	源 実朝 ^{みなもとのさねとも}
33	オレンジ	あひ見ての ^あ 後の心 ^{のちのこころ} に ^に くらぶれば	むかしはものを ^お おもはさりけり	藤原敦忠 ^{ふじわらのあつただ}
34	オレンジ	なげきつつ ^な ひとり寝る夜の ^{ひとりのよ} 明くる間は	いかにひさしき ^お ものとかはしる	藤原道綱母 ^{ふじわらのみちつなのはは}
35	オレンジ	あさぼらけ ^あ うちの川霧 ^{かわぎり} 絶え絶えに	あらはれわたる ^お せせのあしろき	藤原定頼 ^{ふじわらのさだより}
36	オレンジ	はるの夜の ^{はる} 夢ばかりなる ^{ゆめ} 手枕に ^{たまくら}	かひなくたたむ ^お なこそをしけれ	周防内侍 ^{すおうのななし}
37	オレンジ	せをはやみ ^せ 岩にせかる ^{いわ} 滝川の ^{たきがわ}	われてもすゑに ^お あはむとそおもふ	崇徳天皇 ^{すとくてんのう}
38	オレンジ	おほけなく ^お うき世の民に ^{うきよのたみ} おほふかな	わかたつそまに ^お すみそめのそて	慈円大僧正 ^{じえんだいそうじょう}
39	オレンジ	かぜそよぐ ^{かぜ} 檣の小川の ^{なるかぎわ} 夕暮は ^{ゆふぐれ}	みそきそなつの ^お しるしなりける	藤原家隆 ^{ふじわらのいざたか}
40	オレンジ	ひとつも惜し ^を 人も恨めし ^{ひと} あぢきなく	よをおもふゆゑに ^お ものおもふみは	後鳥羽天皇 ^{ごとばてんのう}

- ・ 本大会で使用する札は 100 枚のうちの上記 40 枚です。残り 60 枚はこの大会では使用しません。
- ・ 上記表では五色かるた札での色を掲載していますが、大会では、色分けされていない、書店などで市販されている通常のかるた札を使用します。試合では上の句から詠んでいきます。
- ・ 互いに札を 10 枚ずつ取り、自分の方に向けて並べます（残り 20 枚は詠まれても両陣に存在しない空札となります）。**自陣の札を先に無くした方が勝ちです。**相手陣の札を取ったときは自陣から好きな札 1 枚渡すことで自陣の札を減らしていきます（自陣の札を取ったときはそのまま試合が続きます）。
- ・ 札を同時に取った場合は、じゃんけんではなく、その札を持っている人（札が向いている側の人）の取りになります。